

山王祭

毎年春、日吉大社の桜を背景に開催される「山王祭」。日吉大社の七柱の主祭神を崇敬し、誕生と新生を祝う祭りである。

祭りは3月の第1日曜日に、賀茂玉依姫神と大山咋神の神輿が八王子山から三宮神社と牛尾宮神社に担ぎ込まれるところから始まり、それから1ヶ月余り経った4月12日の夜、再び険しい道を下って東本宮に戻る。

賀茂玉依姫と大山咋神は夫婦とされている。それぞれの神社に別々に祀られ、年に一度、この祭りの時だけ会うことができる。東本宮の拝殿に到着すると、神輿の竿が結ばれ、夫婦の絆が象徴される。その夜、神が宿ると信じられている。

翌朝（4月13日）、2基の神輿は、東本宮と樹下宮の神輿と一緒に近くの大政所と呼ばれるお堂に運ばれる。この日は、花傘巡行、日吉大社の茶畑で栽培された茶の奉納、参拝者からのプレゼント（多くは子供のおもちゃ）の贈呈など、誕生を前にした祝賀行事が終日行われる。

その夜、賀茂玉依姫の労苦を象徴するように、約4基の神輿が約2時間にわたって勢いよく前後に揺られる。そして、合図とともに4基の神輿の棹を前に打ち出し、出産を告げる。その後、神輿は猛スピードで西本宮に運ばれ、他の3つの神社の神輿と合流する。

翌14日には、比叡山延暦寺の僧侶が日吉大社に参拝する。西本宮本殿の前で供物を捧げ、住職が般若心経を読み上げる。

午後には、日吉大社への参道を巨大な榊の枝が曳かれ、西本宮の御祭神である大己貴命が到着したことを示す。その後、7基の神輿は琵琶湖畔の唐崎神社に舁（はしけ）で運ばれる。しばらくの間そこで過ごした後、近隣の町並みを巡りながら日吉大社に戻る。夕刻、神輿はすべて各神社の倉庫に戻される。

この一連の行事は、日吉大社の祭神と天寿を祝うだけでなく、地域の絆を維持・強化するために、何百人もの地域住民の努力の結晶である。